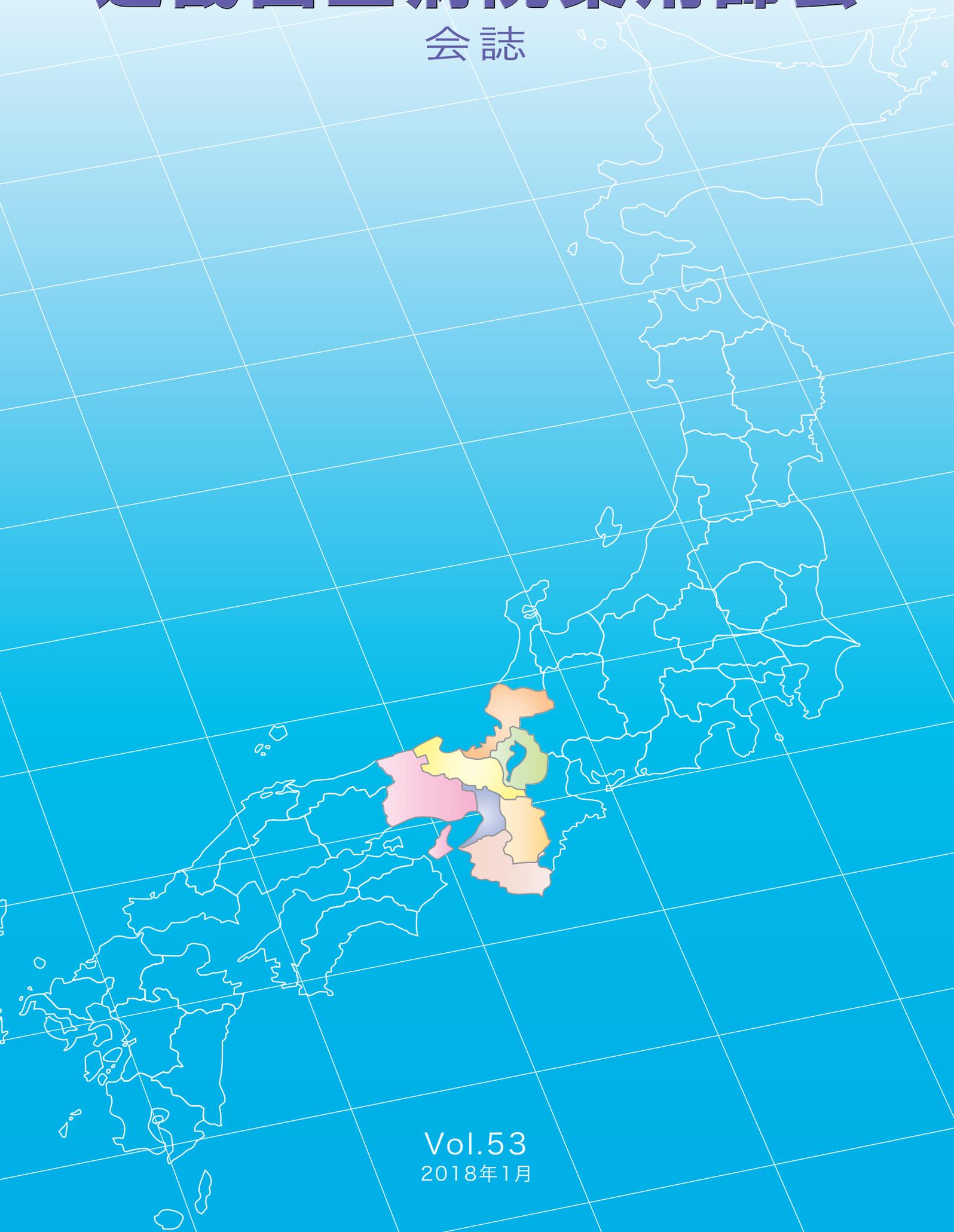


近畿国立病院薬剤師会

会誌



Vol.53
2018年1月

目 次

新年のご挨拶.....	2
	大阪南医療センター 本田 芳久
提言 ～あわら病院へ赴任して～.....	4
	あわら病院 杉山 喜久
薬剤部紹介.....	5
	兵庫中央病院 木村 麻子
平成 29 年度 近畿国立病院薬剤師会事業報告.....	7
	敦賀医療センター 笹谷 美砂音
平成 30 年度 近畿国立病院薬剤師会総会報告.....	8
	大阪南医療センター 水津 智樹
平成 30 年度 近畿国立病院薬剤師会総会 特別講演会報告.....	11
	舞鶴医療センター 田中 奈桜
「第 38 回日本臨床薬理学会学術総会」に参加して.....	13
	和歌山病院 松本 信彦
第 22 回和歌山県病院協会学術大会に参加して.....	14
	南和歌山医療センター 阿部正樹
地区会報告.....	15
	敦賀医療センター 宮部 泰輔
	京都医療センター 藤井 大和
	神戸医療センター 山下 大輔
	循環器病研究センター 中嶋 裕美
	大阪医療センター 坂倉 広大
	奈良医療センター 中澤 誉
	和歌山病院 松本 信彦
趣味のページ ～未知の世界を目指して～.....	21
	大阪南医療センター 齊藤 祐介
編集後記.....	22

新年のご挨拶

近畿国立病院薬剤師会 会長
大阪南医療センター 本田 芳久

新年明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。平素より近畿国立病院薬剤師会（以下、当会）の諸事業にご理解とご協力を賜り心より御礼申し上げます。

「超変革」「躍動」と「世代交代」によりイノベーションをおこすことを目標に会長へ就任してから早や2年が過ぎましたが、今回、皆様より再びご信任を頂き、会長職をもう1期させて頂くこととなりました。これまでと同様、近畿国立病院薬剤師会のために全力を賭して真摯に取り組んで参りたいと思いますので御協力とご指導を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

折に触れ、お示ししているように、3年後には21施設の半数以上の薬剤部科長は退職を迎えます。また、採用者数も昭和44年から47年生まれをボトムに減少の一途をたどり、その後、急激に女性を中心に増加しています。特に概ね昭和40年生まれ以降の採用者は、女性の占める割合が非常に高く、直近の3年は顕著に現れています。

このような状況において、若年層の役職・管理職への養成と女性の働く環境整備が急務の課題となっております。当会の組閣人事も第1期よりさらに若返り、組織を活性化させていきたいと思っています。当会の第2期組閣は執行部のみならず委員長から副小委員長に至るまで若返りを図り、更なるイノベーションを起こすべく動きはじめました。本年度スローガンは「飛翔」です。就任1年目に当会の“超変革”を行い、2年目に当会を“躍動”させてまいりました。3年目はいよいよ皆様と一緒に空高く飛びかける“飛翔”させたいと思っています。

さて、平成30年度は診療報酬・介護報酬同時改定の年にあたります。団塊の世代が75歳以上となる2025年に向けて、世界に類を見ない少子高齢化が進む中、地域で安心して医療や介護が受けられる地域包括ケアシステムの構築もますます進められ、病院における周術期管理や多職種連携による在宅医療体制への充実が望まれます。我々も薬局薬剤師と病院薬剤師を結ぶ入院前術前指導や退院指導に目を向け、患者に対してシームレスな薬物療法を行い、地域と病院の懸け橋となれるよう体制構築が必要と考えます。その際、お互いの薬剤師技能や技術を共有して研修を行うことが重要となります。

当会では、今年より薬剤師卒後教育を目的に教育センター（近畿国立病院生涯教育センター KLEC: Kinki National Hospital Lifelong Education Center）を設立し、すでに100名の認定薬剤師を輩出させました。また、当会会員施設21施設とKLEC認証団体においてKLEC研修シールを配布することが可能となりました。今後も実母団体としての公益社団法人薬剤師認定制度認証機構（CPC: Council on Pharmacists Credentials）から認証を受けたKLECは、国立病院機構が担う19の政策医療およびチーム医療における薬剤師業務に関する研修会を開催し、薬物療法のジェネラリスト育成に力を注ぎ、病院薬剤師だけではなく、かかりつけ薬局・薬剤師、大学教職薬剤師および研究職等、職種によらず生涯研修を実施して行きたいと思っています。

最後に、本年 11 月 8 日に神戸生田会館にて全国国立病院薬剤部科長協議会総会、11 月 9 日・10 日の両日に神戸国際会議場にて第 72 回国立病院総合医学会が開催されます。6 年ぶりに近畿グループが部科長協議会の総会を担当し、京都医療センター、南京都医療センターが担当施設として総合医学会を開催致します。当会としても全力を挙げて臨みたいと考えておりますので、御協力の程宜しくお願い申し上げます。

今年一年が会員の皆様において実り多き年となりますことを祈念して、新年のご挨拶とさせていただきます。本年もよろしくお願い申し上げます。

提言 ～あわら病院へ赴任して～
考えること・考えぬくこと…そしてコミュニケーション

あわら病院 杉山 喜久

あけましておめでとうございます。・・・

私は国立病院に非常勤から数えて32年以上勤務しています。またその間、福井の地での勤務はかれこれ合わせると10年以上も勤務しています。福井県は幸福度 全国1位、学力テスト全国1位、共働き率、全国2位、院外処方せん発行率は、最下位・・・の県です。食べ物もおいしいものが多く、カニや新鮮なお魚はもちろんのことメロンやスイカなどのフルーツなどもおいしく頂きながら単身赴任生活を楽しんでおります。

さてこの「あわら病院」ですがみなさまも2年ほど前「薬剤師のつどい」でこられたかたは、ご存じと思いますが、あわら病院を中心に周り4キロ以内には、病院や医院等の医療施設もなくもちろんコンビニもありません。ちょっとした陸の孤島みたいなところなんです。このことから病院では、単身赴任者向けに当院の栄養士さんや調理師さんが中心となって料理教室も行われています。

病院の診療内容は、障がい児（者）医療、長寿医療、血液・免疫医療の3本柱で在宅医療の充実や「Hospital in the home, Home in the hospital」という概念のもとに在宅での医療が入院医療レベルになるように、入院での生活が在宅生活のレベルになるように入院・外来・在宅の整備が院長の強いリーダーシップの元なされています。

さて、私は、この薬剤科長になって特に注意していることがあります。それは、考えること、考え抜くこととコミュニケーション能力を高めることに注意を払っています。日常の業務で難しい問題に直面することが多々あります。そのような時は、自分なりの考えをしっかりと持ちながら、いろんな人とそれぞれの意見を述べあいながら、多様な価値観、意見の違いについてよく理解するよう心がけています。そしてその結果が、誤った方向へころんでいくことのないよう、お互い譲り合ったり、見方を変えたりしていく努力をしています。そして、できるだけ「正しいもの」に近づけていくよう薬剤科の業務、病院の業務を日々こなしていく必要があります。薬剤科では、ポリファーマシーの改善に取り組んでおり、日々考えること、考えぬくことの多い課題の1つです。

薬剤部紹介



【病院概要】

国立病院機構兵庫中央病院は六甲山系、北摂連山に囲まれた三田盆地のほぼ中央の丘陵地にあり、病院の前にはゴルフ場、近くには公園があり、自然に囲まれた環境にあります。大阪からは三田駅までJRの快速で40分、三田駅からバスで5分の立地です。（ただ、このバスの本数が少ないのが難点ですが。）

当院は国立兵庫療養所と国立療養所春霞園が統合し発足しました。平成21年には病棟の建て替えを行い、そしてこの度、昨年10月に薬剤部を含む外来診療棟が建て替えられました。以前の建物は冬はとても寒かったのですが、今は快適です。現在は、旧外来診療棟跡地にて中央診療棟の建替え工事が行われており、今年の秋に完成予定です。



当院は、セーフティネット系医療（神経・筋難病、筋ジストロフィー、重症心身障害、結核など）を中心に医療を提供しており、兵庫県を中心とする広域の拠点病院となっています。また一方で、内科（消化器、糖尿病、代謝、循環器など）、外科（消化器、呼吸器、整形）系の医療にも重点を置き、地域医療・高齢者医療に積極的に取り組んでいます。

【薬剤部概要】

薬剤部は、薬剤部長、副薬剤部長、主任3名（調剤主任・製剤主任・薬務主任）、薬剤師7名（現在1名欠員）、育児休暇中2名で構成されています。



10 病棟全てにおいて薬剤管理指導業務を実施し、一般病棟 2 病棟と結核病棟にて薬剤師が常駐化し、病棟薬剤業務を行うことで、患者様の薬物療法に貢献しています。

チーム医療は ICT、NST、認知症ケアに参加しています。認知症ケアチームには昨年より参加し始め、薬剤師としてどのように貢献できるか模索中です。

患者様の高齢化が進んでおり、今後は、当院の訪問看護ステーション・地域医療連携室と連携して、在宅患者への訪問薬剤管理指導や、退院時カンファレンスへの参加などの取組んでいきたいと思っています。

(文責：木村 麻子)

平成 29 年度 近畿国立病院薬剤師会事業報告

敦賀医療センター 笹谷 美砂音

平成 30 年 1 月 13 日(土)に開催されました近畿国立病院薬剤師会総会において平成 29 年度事業報告がありましたので報告いたします。

報告前に本田会長より挨拶と、それに続き近畿国立薬剤師会の現状と今後の方針についての説明がありました。

平成 29 年度事業報告

(1) 執行部 (総務・企画・広報・経理)、委員会活動

平成 29 年度年間活動報告について本田会長より報告があった。例年の総会・学術大会・薬剤師の集いに加えて、7 月のキャリアアップ研修会では薬剤師セミナーを開催し、10 月の委員会シンポジウムでは回転ずしシンポ(ワールドカフェ形式)を行った。参加者のアンケート結果では、いずれのイベントも高評価であった。また、近畿国立病院薬剤師会のホームページに google フォームを利用した新システムを用いて、薬剤師会外部の非会員からの講習会の申し込みの管理を行った。

(2) 地区会報告

各地区理事より活動内容ならびに今年度の地区理事・副理事の選出について報告があった。

(3) 薬剤部科長協議会中間報告

平成 29 年度年間活動状況について本田会長より報告があった。若手が増加していることから 5 月に「人材育成」をテーマに協議会が行われた。また、10 月には KINKI-PAD の現状報告と NHO ワーキングシンポジウムが行われ、KINKI-PAD については協議の結果、個人到達度の指標として各施設で検討し使用することとなった。

(4) 近畿国立病院生涯教育センター中間報告

近畿国立病院生涯教育センターについて本田会長より報告があった。昨年 6 月 2 日に公益社団法人薬剤師認定制度認証機構(CPC)から認証を受け、これに伴い近畿国立病院生涯教育センター(KLEC)が新たに設立された。すでに 100 名の薬剤師が KLEC 認定薬剤師として認定されている。

平成 30 年度 近畿国立病院薬剤師会総会報告

大阪南医療センター 水津 智樹

平成 30 年度 近畿国立病院薬剤師会総会が、平成 30 年 1 月 13 日(土) ハイアットリージェンシー大阪にて開催された。関本副会長の開会の辞より総会が開始となり、本田会長からの挨拶、引き続いて上野薬事専門職より挨拶を頂いた。

議長には大阪南医療センター 山口副薬剤部長が選出され、平成 29 年度事業報告、会計報告、会計監査報告があり、全て承認された。続いて、平成 30 年度事業計画案、予算案について審議され、全て承認された。その後、部会紹介が行われ、最後に河合副会長の閉会の辞をもって総会が終了した。

日 時：平成 30 年 1 月 13 日(土) 12:30～14:00

場 所：ハイアットリージェンシー大阪

出席者：187 名、委任者 112 名(会員数 327 名)

会則 12 条に従い、会員過半数出席により総会が成立

司 会：関本副会長(神戸医療センター 薬剤部長)

開会の辞：関本副会長(神戸医療センター 薬剤部長)

議 長：山口副薬剤部長(大阪南医療センター 副薬剤部長)

閉会の辞：河合副会長(やまと精神医療センター 薬剤科長)

1. 報告事項

(1) 平成 29 年度事業報告

① 事業報告

本田会長(大阪南医療センター)より事業報告がなされた。

② 地区会報告

各地区理事より活動報告があった。

- | | |
|--------------|----------------------|
| ・京都北部・福井地区 | 宮部地区理事(舞鶴医療センター) |
| ・京都南部・滋賀地区 | 藤井地区理事(近畿中央胸部疾患センター) |
| ・兵庫南部地区 | 山下地区理事(神戸医療センター) |
| ・大阪北部・兵庫東部地区 | 中嶋地区理事(循環器病研究センター) |
| ・大阪南部地区 | 坂倉地区理事(大阪医療センター) |
| ・奈良地区 | 中澤地区理事(奈良医療センター) |
| ・和歌山地区 | 松本副地区理事(和歌山病院) |

③ 薬剤部科長協議会中間報告

平成 29 年度事業について、本田会長より中間報告がなされた。

④ 近畿国立病院生涯教育センター中間報告

本田会長より、中間報告がなされた。

(2) 平成 29 年度会計報告



桶本経理担当理事（京都医療センター）より、平成 29 年度会計について報告があった。

(3) 平成 29 年度会計監査

老田監査役（循環器病研究センター）より、平成 29 年 12 月 9 日に平成 29 年度会計監査が実施され、適正かつ正確であるとの報告があった。

以上について審議の結果、賛成多数で承認された。

2. 新会長挨拶

本田会長より新役員が紹介された。

3. 審議事項

(1) 監査役選出

土井薬剤部長（紫香楽病院）より、覚野薬剤部長（南京都病院）、吉野薬剤部長、（宇多野病院）の推薦があり、賛成多数で承認された。

(2) 平成 30 年度事業計画案

① 総務

平成 30 年度事業計画案について、本田総務担当理事（東近江総合医療センター）より説明があった。

② 企画

平成 30 年度事業計画案について、中野企画担当理事（大阪南医療センター）より説明があった。

③ 広報

平成 30 年度事業計画案について、山下広報担当理事（神戸医療センター）より説明があった。

④ 委員会

平成 30 年度事業計画案について、教育研修委員会：續木委員長（神戸医療センター）、臨床研究推進委員会：安井副委員長（大阪南医療センター）、医薬品安全管理委員会：森委員長（大阪南医療センター）、チーム医療委員会：岸本委員長（姫路医療センター）よりそれぞれ説明があった。

(3) 平成 30 年度予算案：（京都医療センター）

桶本経理担当理事より、平成 30 年度予算案について説明があった。

以上について審議の結果、賛成多数で承認された。

4. その他

- ・各部会の代表者より活動目的、運営方針の紹介があった。
- ・早川薬剤部長（南和歌山医療センター）より、遠方の施設に所属している会員への交通費支給の検討について提案があり、本田会長、関本副会長より以下の回答がなされた。



理事会が単独で開催される場合は各理事へ現在も交通費を支給している。ただし薬剤師会行事と同日で行われる場合は、その他の会員も実費で参加しているため支給していない。全会員の交通費を支給するには現行の会費では困難である。各会員には上記の内容をご理解いただき今後ともご協力を賜りたい。

- 本田会長より、薬剤師会の顧問として上野薬事専門職に加え石塚薬剤部長（近畿中央胸部疾患センター）をお願いしたいとの提案があり、賛成多数で承認された。

以上

舞鶴医療センター 田中 奈桜

講演 I : 新たな 6 年制薬学部実務実習の取り組み

～改訂モデル・コアカリキュラムについて～

日時：平成 30 年 1 月 13 日（土）15：00～16：00

場所：ハイアットリージェンシー大阪

講師：大阪大谷大学 薬学部 実践医療薬学講座 教授 名徳 倫明先生



平成 31 年度より改訂版コアカリキュラムに基づく実務実習が開始される。本講演では、大阪大谷大学 実践医療薬学講座 名徳 倫明先生をお招きし、改訂のポイントについてお話を伺った。

薬学教育の最終ゴールとしては、10 項目の「薬剤師に求められる基本的資質」が設定されている。その 10 項目とは、1. 薬剤師としての心構え 2. 患者・生活者本位の視点 3. コミュニケーション能力 4. チーム医療への参画 5. 基礎的な科学力 6. 薬物療法における実践的能力 7. 地域の保健・医療における実践的能力 8. 研究能力 9. 自己研鑽 10. 教育能力 である。これまではこれら 10 項目に基づいて設定されている GIO、SBOs を学習目標としていたが、今回の改訂より学習成果基盤型教育 (Outcome-based Education : OBE) の考え方を導入し、学生が卒業後のイメージを持てるような実務実習を目指す。SBOs はチェックポイントとして位置づけられ、「学生が学習の結果どうなるか」(アウトカム) を最終的な到達目標と設定する。その際、観点と尺度をあらかじめ示しておく「ルーブリック」を用いることにより、学生は目標達成に向け効率よく取り組めること、指導薬剤師は達成度の判断が容易となることが期待されている。

次に、実習の枠組みも見直しが行われる。これまで実習内容に重複のみられるところもあった薬局・病院間で施設連携し、内容を分担した上で、連続した 22 週間のスケジュールで行うことで一貫性のある学習効果の高い実習が期待できる。これに伴い 4 年次 2 月から実習が開始するなど、時期の変更が予定されている。さらに、あらかじめ実習計画に主要 8 疾患を組み込み、施設間連携やグループ実習も加えることにより代表的な疾患を十分に体験できるように配慮されている。

後半は、実際に実務実習を受ける立場である薬学生のアンケート結果が発表された。実務実習中に緩和医療を受ける患者と直接関わることができた学生において、緩和領域についての理解度が上昇していた。参加・体験型の実習によって学習効果が高まることが示唆された。特に印象的だったのは、病院実習をきっかけに就職志望先を薬局から病院に変えた学生が多いというアンケート結果だ。病院実習は学生にとって将来を考えるためのよい機会となるべきであるが、実習受け入れ施設としても優秀な人材の育成、ひいてはリクルートのためのチャンスともいえるだろう。実務実習生を受け入れる薬剤師として、新しい制度に対して柔軟に対応していくことが必要であると感じた。



講演Ⅱ：循環器系大規模臨床試験の読み方

日時：平成30年1月13日（土）16：00～17：00

場所：ハイアットリージェンシー大阪

講師：国立病院機構 大阪南医療センター

統括診療部長 循環器疾患研究室長 佐々木 達哉先生

治験を担当しない薬剤師であっても、日常業務において製品説明会や勉強会で統計情報を目にすることは多い。薬剤師として、眼前の現象、眼前の数字に惑わされずに臨床試験の結果を読み解くことが求められる。本講演では、様々な臨床試験および論文をご紹介頂くとともに、1) N数が大きい臨床試験 2) カプランマイヤー曲線の形から読み取れること 3) 疫学調査と介入試験 についてお話し頂いた。

N数が大きい臨床試験では、RR（相対危険度）、RRR（相対危険度減少率）といった相対的な評価で結果が良いように見えても、ARR（絶対リスク減少率）、NNT（治療必要数）といった絶対数での評価を行うと、結果が異なる場合があることが理解できた。製品説明書や論文においては、相対的な数値しか記載されていない場合があるため、ARRやNNTといった絶対数を自ら計算したうえで評価することが重要であると考えた。また、 Kaplan-Meier曲線の形だけにとらわれず、患者背景や試験デザインまでを考慮して考察した場合は、異なる解釈ができることもご教授いただいた。そして、臨床試験には、疫学調査と介入試験を混同した結果が見られるものもあり、留意しなければならないと感じた。

佐々木先生の刺激的な講演を拝聴し、何にでも疑問を持つ姿勢の大切さを再認識することができた。今後の業務において生かしていきたい。

「第38回日本臨床薬理学会学術総会」に参加して

和歌山病院 松本 信彦

2017年12月7日から9日に横浜で開催された「第38回日本臨床薬理学会学術総会」を聴講してきたので報告致します。和歌山病院では治験は終了しましたが、今後臨床研究の支援も考えているところです。日本臨床薬理学会では、治験、臨床研究の発表のみならず、薬理学に関する発表も多数あるため、CRCとしてではなく、薬剤師としても興味のある発表が多数ありました。第38回のテーマは『橋を架ける』となっており、最適な薬物療法を確立するための理論と実践の架け橋、非臨床データと臨床データの架け橋、職種間の共通認識のための架け橋、海外と日本との架け橋など様々な意味が込められていました。



様々な発表がある中で、被験者保護についてのテーマで責任医師、被験者、IRB委員、法律家からの発表がありました。立場の違いから考える被験者保護の話聞くことは非常に勉強になりました。私は治療法がない疾患での治験経験はありませんが、そのような治験の場合は被験者も参加したいという気持ちが強くなり、被験者を保護するということが難しい状況があるようです。先日の認定CRC試験でもこのような被験者にどのように対応するかとの筆記試験がありました。今回の意見を参考に自分自身でどのように対応を行っていくかを考えていきたいと思えます。また、被験者から採取した試料について依頼者での対応についての発表があり、個人情報保護の観点からも手順書を企業独自に作成しているとのことでした。企業での被験者試料の取扱いについて知ることが出来て勉強になりました。

パシフィコ横浜までの道中に、綺麗なツリーがありました。12月上旬であったため、クリスマスイルミネーションがとても美しく、クリスマスとは無縁な私ですが、とても癒されました。(ミッキーとミニーの仲の良さは定評でした)

最後に、先日の試験にて面接官に『臨床薬理学会学術総会で発表しようとする場合、今、何をテーマにしますか?』との問いがありました。突拍子もない質問に戸惑いましたが今後、何か取り組みを行い発表していかないといけないとも感じました。今回の経験を生かし今後の業務に取り組むと同時に、次回の学術総会では当院からも何か発表をしたいと思えます。



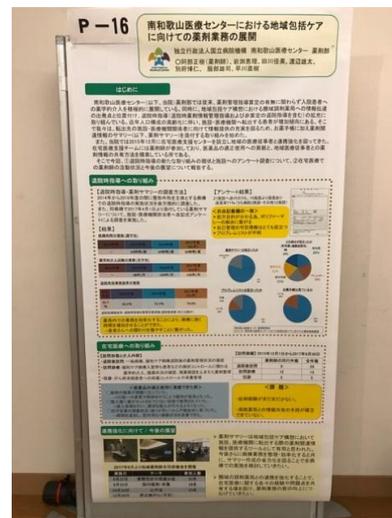
第22回和歌山県病院協会学術大会に参加して

南和歌山医療センター 阿部正樹

人口の高齢化が問題になっている現在、和歌山県の高齢化率は30.9%（平成27年国勢調査）に達しており、全国の中でも早い段階で超高齢社会を迎えると予想されている。住み慣れた地域で人生を全うすることを実現するために、国は「地域包括ケアシステム」の構築を進めている所であり、各医療機関が個々の役割を理解し行動し始めている。今回、「地域包括ケアシステム構築に向けての取組」というテーマが掲げられた本大会に参加、発表してきましたので報告する。

演題の内容については看護、リハビリテーションの分野が多く、残念ながら薬剤師に関連した発表は少ない状況であった。薬剤師の参加人数も少なかったと思われるが、その中でも私の発表の際は、フロアから質問もして頂けた。他病院でも同様の取り組みをされようとしている中で、同じような問題を抱えている事を実感でき、意見交換できた事は今後の取り組みに生かしていきたい。地域包括ケアシステムを構築していく中で、薬剤師同士の連携は当然のことながら、他の医療従事者、介護者との連携も必要になる。当院では、今年度より同医療地区の薬剤師との連携強化への取り組み（定期的な研修会）を始めたが、今後は他の職種に対しての薬剤師関連の情報共有の手段も考えていく必要があると考える。その中で、本大会のような普段あまり目にする事のない他職種の発表を見ることができたのは、他職種が地域包括ケアシステムを成功させる中でどのようなサポートをしているのか、どのような問題を抱えているのかという事を知る機会に繋がり、良い経験になった。

また、基調講演では厚生労働省で働かれていた経験をお持ちの先生からお話を聞くことができた。過去にニュースで取り上げられた出来事が省庁側ではどのように対応されていたかという内輪話も含めてお話して頂いたことは、非常に興味深く、分かりやすいものであった。将来の医療・介護の破綻を回避することも考慮され、従来の「治すこと」、「救うこと」を目的とした「病院完結型」から、「癒すこと」、「支えること」、「看取ること」に主眼をおいた地域全体で治し支える「地域完結型」医療に変えていく必要性を国は述べている。都会ではこのシステムの必要性をまだまだ実感できない部分も多いかもしれないが、地方では重要性を痛感できる。本大会への参加を通して、制度を構築していくために何が問題であるかを知り、地域の医療従事者として何ができるかを改めて考えることができたため、その経験を今後の業務に生かしていきたい。



～ 地区会報告 ～

<京都北部・福井地区> (地区理事：宮部泰輔)

日時：平成 29 年 5 月 26 日 (金) 19：00～

場所：敦賀市

参加者：舞鶴医療：11 名、敦賀医療：10 名、あわら病院：3 名

出席率：85.7% (出席者 24 名/会員数 28 名)

議題：

1. 今年度新たに移動された先生方、及び新人の先生方紹介
舞鶴医療センター：新人 1 名、異動 2 名
敦賀医療センター：新人 1 名、異動 2 名
あわら病院：異動：1 名
2. 各施設における今年度の取り組みについて
3. 懇親会

日時：平成 29 年 11 月 17 日 (金) 19:00～21:30

会場：敦賀市

参加者：舞鶴医療：10 名、敦賀医療：7 名、あわら病院：3 名

出席率：74.1% (出席者 20 名/会員数 27 名)

議題：

1. 2018 年度、新地区理事、新副地区理事の紹介
新地区理事
高口 仁宏先生 (あわら病院 調剤主任)
新副地区理事
藤田 晃介先生 (敦賀医療センター)
2. 第 4 回理事会報告
3. 懇親会

<京都南部・滋賀地区> (地区理事：藤井大和)

日時：平成 29 年 6 月 9 日 (金) 19：30～21:30

場所：京都市

参加者：京都医療センター：29 名、南京都病院：7 名、東近江総合医療センター：13 名、紫香
楽病院：4 名、宇多野病院：9 名

出席率：82.4% (出席者数：61 名/会員数：80 名 うち産休・育休 6 名)

議題：

1. 理事会報告
各自近畿国立病院薬剤師会のホームページ確認し、今後の行事に積極的に参加して

頂くよう依頼した。

2. 新会員・各施設の現状報告について

新会員は 16 名

各施設の現状報告については、薬剤管理指導業務や後発医薬品採用状況等の内容であった。

3. 親睦会

参加者 82.4%と前回の地区会と比較し、参加率は増加。

積極的に他施設と情報交換を行うことが出来た。次回地区会も参加率 80%以上を目指す。

日時：平成 29 年 11 月 24 日(金) 19:30～21:30

場所：京都駅周辺

参加者：京都医療センター：22 名、南京都病院：6 名、宇多野病院：6 名

東近江総合医療センター：12 名、紫香楽病院：4 名

出席率：64.9%(出席者 50 名/会員数 81 名 産休 4 名)

議題：

1. 理事会報告

次年度の近畿国立病院薬剤師会の行事内容、KLEC 認定薬剤師の認定申請の注意点について説明した。次年度は京都南部・滋賀地区で薬剤師の集いが開催となるため、積極的な参加と協力を依頼した。

2. 親睦会

参加者 64.9%と前回地区会と比較し、参加者は減少。

次回地区会は参加率 70%以上を目指す。

3. 平成 30 年度 薬剤師の集いについて

宿泊場所：里湯昔話 雄山荘（滋賀県大津市雄琴） 現在交渉中です。

<兵庫南部地区> (地区理事：山下大輔)

日時：平成 29 年 7 月 21 日 (木) 19:30～21:30

場所：明石駅周辺

参加者：姫路医療 (15 名) 神戸医療 (13 名) 青野原 (0 名)

出席率：67% (出席者 28 名/会員数 42 名)

議題：

1. 薬剤師の集いの役割分担について

2. 懇親会 (新会員紹介)

日時：平成 29 年 11 月 8 日 (木) 19:30～21:30

場所：明石駅周辺

参加者：姫路医療 (12 名) 神戸医療 (13 名) 青野原 (2 名)

出席率：64% (出席者 27 名/会員数 42 名)

1. 近畿国立病院生涯研修センターの研修制度について
2. 次期地区理事について 下記2名で承認された。

地区理事 木原 理絵 (姫路)

副地区理事 荒川 宗徳 (神戸)

薬剤師の集い

日時：平成29年6月24、25日

場所：夢乃井

参加人数：日帰り：36名、宿泊：125名、観光(2日目)：42名

<大阪北部・兵庫東部地区> (地区理事：中嶋裕美)

日時：平成29年6月15日(木) 19:30～

場所：虎連坊 ヒルトンプラザウエスト店(大阪府大阪市北区梅田2-2-2)

参加者：兵庫中央(5名)、刀根山(11名)、循環器病研究センター(23名)

出席率：54.9%(出席者39名/会員数71名)

議題：

1. 新会員紹介 刀根山3名、兵庫中央1名、循環器病研究センター6名
施設異動 刀根山1名、循環器病研究センター1名
2. 施設紹介
本年度に重点的に取り組む事項について
刀根山病院
ポリファーマシー対策と薬薬連携
兵庫中央病院
建て替えと地域連携
循環器病研究センター
外来での術前の薬剤師面談の推進、手術室への薬剤師の配置
3. 理事会報告
近畿国立病院認定薬剤師研修制度の利用を呼び掛けた。

日時：平成29年11月17日(金) 19:30～

場所：梅田

参加者：兵庫中央(8名)、刀根山(14名)、循環器病研究センター(14名)

出席率：41.7%(出席者34名/会員数71名)

議題：

1. 新会員紹介 刀根山1名、兵庫中央1名、循環器病研究センター1名
2. 理事会報告
近畿国立病院生涯教育センター認定薬剤師研修制度について
・規定・実施要領・暫定措置について説明
・質疑応答
3. 次期徳理事について
地区理事：兵庫中央病院 森田知子
副地区理事：刀根山病院 山脇未央子

<大阪南部地区> (地区理事：坂倉広大)

日時：平成 29 年 6 月 8 日(木) 19:00～21:30

場所：天王寺

参加者：大阪南医療センター 24/30 名（ 80 %）

近畿中央胸部疾患センター 15/21 名（ 71 %）

大阪医療センター 31/41 名（ 76 %）

出席率：76%（出席者 70 名/会員数 92 名）

議題：

1. 理事会連絡
2. 各施設の現状報告
大阪南医療センター 田路 章博 近畿中央胸部疾患センター 丸山 直岳
大阪医療センター 中蔵 伊知郎
(敬称略)
3. 新会員紹介(南部地区間異動も含む)
大阪南医療センター 9 名、近畿中央胸部疾患センター 4 名
大阪医療センター 10 名
4. 意見交換会

日時：平成 29 年 11 月 17 日(金) 19:00～21:00

場所：難波

参加者：大阪南医療センター 22/29 名（ 76 %）当日 1 名欠席

近畿中央胸部疾患センター 11/21 名（ 52 %）当日 1 名欠席

大阪医療センター 22/40 名（ 55 %）

出席率：61%（出席者 55 名/会員数 90 名）

議題：

1. 理事会連絡
近畿国立病院生涯教育センター認定薬剤師研修制度について
2. 次期地区理事の選出
地区理事：近畿中央胸部疾患センター 小林 正志
副地区理事：大阪医療センター 仲野 宏紀
(敬称略)
3. 各施設の現状報告
大阪南医療センター 池上 洋平
近畿中央胸部疾患センター 丸山 直岳
大阪医療センター 庄野 裕志
(敬称略)
4. 新会員紹介
大阪南医療センター 3 名、近畿中央胸部疾患センター 1 名、
大阪医療センター 1 名
5. 意見交換会

<奈良地区> (地区理事：中澤 誉)

日時：平成 29 年 3 月 9 日(木) 19:00～21:00

場所：奈良市内

参加者：奈良医療：7 名、やまと精神：3 名

出席率：100%(出席者 10 名/会員数 10 名)

議題：

1. 人事異動について
2. 送別会

日時：平成 29 年 4 月 21 日(金) 19:00～21:00

場所：奈良市内

参加者：奈良医療：7 名、やまと精神：3 名

出席率：91%(出席者 10 名/会員数 11 名)

議題：

1. 人事異動について
新たに奈良医療センターに 3 名、やまと精神医療センターに 1 名の先生方が配属となった。
2. 地区理事選出
平成 29 年度理事選出は理事立候補と会員の挙手による承認により中澤誉が奈良地区理事となった。
3. 歓迎会

日時：平成 29 年 9 月 28 日(木) 19:30～21:30

場所：奈良市内

参加者：奈良医療：7 名、やまと精神：3 名

出席率：91%(出席者 10 名/会員数 11 名)

議題：

1. 人事異動について
10 月 1 日付けで奈良医療センターより 1 名異動となった。過員のため補充はなし
2. 地区理事選出
地区理事：奈良医療 中澤 誉
副地区理事：やまと精神医療 小林 雅典
3. 送別会
大阪南医療センターへ異動となる齊藤先生の送別会を行った。

<和歌山地区> (副地区理事：松本信彦)

日時：平成 29 年 7 月 20 日（木） 19:30～21:30

場所：和歌山県白浜町 白良浜

参加者：南和歌山医療センター 17 名（19 名） 和歌山病院 5 名（7 名）

出席率：84%（出席者 22 名/会員数 26 名）

議題：

1. 異動者、新採用者自己紹介
2. 各施設の取り組み
 - ①薬薬連携における院外薬局に対する対応等について
 - ・薬局薬剤師会に対する勉強会の定期開催開始（南和歌山医療センター）
 - ・有田・日高地区病院薬剤師会より、「院外処方箋における疑義紹介に対する代行回答プロトコル作成」のためのワーキンググループ立ち上げ（和歌山病院）
 - ②学会発表（2016/12 以降）
 - ・南和歌山医療センター 5 学会 6 演題
 - ・和歌山病院 1 学会 1 演題
 - ③治験関連 新規治験
 - ・南和歌山医療センター 2 課題
 - ・和歌山病院 1 課題
3. 意見交換会

<和歌山地区> 第 2 回 地区会報告（副地区理事：松本 信彦）

日時：平成 29 年 11 月 30 日（木） 19:30～21:30

場所：和歌山県 田辺市

参加者：南和歌山医療センター 16 名（18 名） 和歌山病院 5 名（7 名）

出席率：84%（出席者 21 名/会員数 25 名）

議題：

1. 人事異動について 10 月 1 日 南和歌山医療センターより小林薬剤師異動。
2. 地区理事選出
小林地区理事異動に伴い、菊池貴大薬剤師が選出され会員により承認された。
副地区理事について、根上直樹薬剤師が選出され会員により承認された。
3. 学会関連
南和歌山医療センター 5 学会 7 演題発表
和歌山病院 1 学会 1 演題発表
4. 意見交換会

以上

趣味のページ ～未知の世界を目指して～

大阪南医療センター 齊藤 祐介

東近江総合医療センターの豊田先生よりバトンをいただきました、大阪南医療センターの齊藤と申します。趣味のページということですので、私がいつも趣味を聞かれたときに答えるスキューバダイビングについてお話しさせていただこうと思います。

ライセンスを取得したのは国立病院機構に就職して1年目の夏でした。社会人になって何か新しいことをプライベートでも始めたいと思ったとき、兄弟がダイビングの話を楽しそうにしていたことを思い出したのがきっかけです。やろうと決めた後はすぐにライセンス取得の方法、取得を斡旋してくれるショップを探してプール講習、ツアーに参加しました。普段は専らインドア派の私が、謎の行動力を見せた瞬間でした。

実地講習にて実際に海に潜ると、深度を一定に保つのが思っていた以上に難しかったり、耳抜きに苦戦したりしましたが、息継ぎなしで長時間水に潜ってられるというのはスキューバならではの非常に新鮮な経験でした。はるか上に見える水面や、水の中独特の音、周りを泳ぐ魚たちといった世界は今までに経験したことがないもので、非常に魅力的でした。

今はオープン・ウォーターといってエントリーレベルのライセンスしか持っていないので最大でも水深18mまでしか潜れませんが、いつかアドバンスド・オープン・ウォーターという1段階上のライセンスを取得し、最大水深30mまで潜れるようになるのが目標です。私がお世話になったショップのアドバンス講習ではナイトダイビングがあり、夜光虫の美しさを鑑賞できるそうなので楽しみです。

経験は少ないですが一生続けられる趣味ですので、趣味を聞かれた際に自信を持ってスキューバダイビングだと答えられるように大事にしていきたいと思います。非常にお金のかかる趣味ではありますがね(笑)。

次回は和歌山県大和郡大住町の精神医療センターの大住先生に依頼しております。私も楽しみにしています。よろしくお願ひ致します。

編集後記

今回、広報担当も新メンバーとなり初めての会誌を発行することができました。といっても今回は前広報の方々におんぶにだっこ状態でしたが・・・この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。また、年始のお忙しい中、原稿を頂いた先生方、ありがとうございました。

本田会長の下、広報担当メンバーは今まで以上に若返っています。会誌はもちろん他にも広報担当としていろいろな挑戦をし、少しでも皆様に楽しんで頂けるように頑張っていきたいと思います。どうぞよろしく申し上げます。

広報担当理事 山下大輔

近畿国立病院薬剤師会会誌 第五十三号 平成 30 年 1 月発行

発行元 近畿国立病院薬剤師会事務局

大阪府河内長野市木戸東町 2-1

(独立行政法人国立病院機構大阪南医療センター薬剤部内)

発行人 会長 本田 芳久 (大阪南医療)

編集 広報担当理事 山下 大輔 (神戸医療)

広報委員 小田 亮介 (京都医療)

藤原 佐知子 (大阪南医療))

喜田 孝史 (京都医療)

中西 剛志 (姫路医療)